

オルガノン要約 § 239～248

§ 239 レメディが純粹に作用する時は、それぞれ特有の間欠熱様の熱を出す。つまり自然の間欠熱に対応するレメディは多く存在するのでそれを見つけよ。

§ 240 間欠熱の患者に特有のレメディを投与しても完全に治癒しない場合は、必ずソーラが潜んでいるので、抗ソーラのレメディを用いなければならない。

§ 241 間欠熱の流行病には共通した特徴があり、それは特定のレメディを指し示す。それがソーラによる慢性病になっていない場合には効果的に働く。

§ 242 間欠熱の流行病で初期の発作的症状を治癒しないでおく、もしくはアロパシーで抑圧治療するとソーラが展開し始める。その時は通常高ポテンシーの **Sulph.**か **Hep.**を極微量必要とする。

§ 243 間欠熱は普通きわめて悪性のものである。

A) まずその人特有のレメディを見つけて、数日間適用すること。

B) それでもうまくいかない場合はソーラが展開しているので、抗ソーラのレメディを投与しなければならない。

§ 244 沼沢地域の間欠熱はそれほど悪性ではない。その生活を正した上で、レメディ (**Chin.**) を投与したなら、すぐ回復するだろう。しかしそれでも回復しない場合は、ソーラに対する治療をしなければならない。

§ 245 ここからはレメディとその使い方、食事、使う時の注意について述べる。

§ 246 回復が順調に進んでいる時はレメディを投与してはならない。慢性病はレメディ粒によって時間をかけて (40 日～100 日) 治癒が進むが、その時も投与してはならない。しかしこういうことは非常にまれであり、患者や医者にとっては極めて迅速な治癒を達成することを希求しなければならない。そのためには、

A) レメディが極めて適切に選ばれること。

B) ポテンタイズされたレメディを使うこと。

C) 極微量で用いること。

D) 適切な投与間隔を設けること。

E) 投与するたびにポテンシーを変えなければならない。なぜなら根源的生命力は最初のレメディによって状態を変えているから。

(注) もしその必要があれば、十分に選ばれたレメディなら毎日、数ヶ月でも使うことができる。低い希釈度から始めるので希釈度を高くしていくことができる。

§ 247 ポーテンシーを変えずに同じレメディを一回以上反復して投与してはならない。それは治癒すべき症状以外のレメディの症状を発症させてしまう。

同じポーテンシーのレメディでは一回目と同じことはできない。同一の処方を繰り返すと以前よりも重い状態にする可能性がある。

(注) 投与するたびにポーテンシーを変更すると障害は起きない。適切なレメディはより多くの違った仕方(少しずつ高いポテンシーに変えてゆく)で投与されて初めて最もよく効力を発揮する。

§ 248 レメディの飲み方：

A) レメディの溶液(注)は服用前に必ず8~12回容器を浸透させて活性化する。匂いを嗅いで服用するときも、8~10回強く浸透すること。

B) そこからスプーン1杯分服用させる。

C) 急性の場合は、場合に応じて一時間ごとに飲んでもよい。

D) 慢性の場合でも数ヶ月間毎日飲むことも可能である。

E) レメディの溶液を使い切ったら、同じ溶液により高いポーテンシーのレメディを1粒入れる。

F) そうする間に一群の変化した症状の中で他の症状が現れたとき、ホメオパシー的に適した他のレメディを変わりに選ばなければならない。その場合もA~Eのやり方を用いる。完全に正しいレメディを毎日反復していると、ホメオパシー的悪化(ブルービング：レメディの症状)が現れる。それをもって治癒が完了する時と考え、投与量を減らしていき、間隔も長くし、もはやこれ以上レメディが必要でないと判断したなら、投与を中断する。そうすればレメディの症状も消えていく。

(注) レメディの溶液の作り方と飲み方：

A) レメディ1粒を数粒の乳糖と一緒にすりつぶす。

B) コップ7、8杯(1リットルくらい?)の水にレメディ1粒(A)を溶かす。

C) そこから大さじ1杯の量をコップで8~10倍に薄める。

D) 強くかき混ぜる。

E) そこから一定量(一口程度)を飲む。

F) 敏感な患者には第二、第三のコップを用意し、そこから小さじ一杯飲む。